

令和8年度 第1回 鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会

令和8年5月13日 午後6時30分～
鬼北町中央公民館 3階 大会議室

1 開 会

2 あいさつ 鬼北町教育委員会教育長 行定 洋嗣

3 委嘱状交付

4 委員紹介

5 委員長・副委員長選出

6 議事

- (1) 鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会について
- (2) 小規模な学校のメリット・デメリット、規模が大きくなった場合のメリット・デメリットについて
- (3) 今後の児童数・生徒数の推移について
- (4) 保護者アンケート結果について
- (5) 令和7年度委員会の進捗状況について
- (6) 今後の予定について

7 その他

8 閉 会

(設置)

第1条 本町の今後における小・中学校の適正規模及び適正配置の再編整備を検討するため、鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) 学校の規模及び配置等に関する基本的な考え方について
- (2) 前号に掲げる適正化のための具体的な方策について
- (3) その他町の教育のため必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、25人以内で構成する。

2 委員は、次に掲げる者の中から、教育委員会が委嘱又は任命する。

- (1) 保護者代表
- (2) 地域代表
- (3) 学校関係者代表
- (4) 保育園及び認定こども園関係者代表
- (5) 学識経験を有する者
- (6) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長を各1人置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、会務を統括し、検討委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員会は、必要があると認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、鬼北町教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この訓令に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成27年7月29日から施行する。

附 則(令和5年1月23日教委訓令第1号)

この訓令は、公布の日から施行する。

附 則(令和5年3月27日教委訓令第5号)

この訓令は、令和5年4月1日から施行する。

鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会について

1 今までの経過

○答申（平成28年1月）

鬼北町における学校の適正規模・適正配置については、「5年以内に再検討する」との結論に達した。

また、今後数年間小規模校が存するにあたり、小規模校の子どもたちの教育的配慮に特化した対策を教育行政の最重要課題と位置づけられたい。

○答申（令和4年4月）

鬼北町における学校の適正規模・適正配置については、「令和7年度に再検討する」との結論に達した。

令和7年度には、令和5年度に統合され新たな運用が展開される保育所の成果や課題が整理できると思われる。また、令和6年度からは新しい広見中学校校舎及び体育館の全面利用が始まり、今後の鬼北町の義務教育に対する町民の関心も高まることが予想される。

ただし、「児童生徒数の減少により、今後おおむね10年間において、いかなる形にせよ学校の統廃合の具体的な検討は避けることはできない」ということを事実として認識する必要がある。

教育委員会においては、統廃合を始めとする小中学校の再編や義務教育の充実に対する関心を高め、意識の醸成を図っていくため、児童生徒の保護者に対して、今後の児童生徒数の推移を説明の上、アンケート調査等を実施されたい。

また、無駄を避けるため、具体的な統廃合の計画が策定されるまでの間は学校の大規模改修は凍結し、必要最小限の修繕に止めることが望ましい。

2 令和7年度中における鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会開催状況

日付	内 容
令和7年 1月31日	好藤小学校
2月 4日	三島小学校
2月 4日	愛治小学校
2月12日	広見中学校
2月13日	近永小学校
2月13日	泉 小学校
2月14日	日吉小学校
2月14日	日吉中学校
2月16日	未就学児（中央公民館）
2月16日	未就学児（日吉支所）
2月17日	保護者アンケート 配布
3月17日	保護者アンケート 回収完了
6月20日	区長・組長会 説明（7月1日まで）
8月20日	第1回鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会
11月19日	第2回鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会
令和8年 2月16日	第3回鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会

小規模な学校のメリット・デメリット

具体的な事例

小規模校な学校であることのメリット	小規模校な学校であることのデメリット
教育効果	
<ul style="list-style-type: none"> ○個々の児童生徒の活躍の場を多く設定することができる。 ○授業や学校生活において責任感や主体性が育ちやすい。 ○教師が児童生徒一人一人の特性を把握し、きめ細やかな生活指導や学習指導ができやすい。 ○小回りがきくので校外学習が容易にできるとともに、多様な教育活動を実践しやすい。 ○地域や外部の人と連携する活動が多いことから、社会性やコミュニケーションスキルが伸びる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考え方や意見を出し合い、高め合う学習形態が取りにくい。 ○体育や音楽等の集団学習に制約があり、協働的な学びの実現が難しい。 ○本人の特性に応じていないこともやらないことがある。 ○複式学級の編成に関して、学級担任の負担増や、保護者の不安感がある。 ○部活動を選択できないケースや人数が少なくチームが組めないケースがある。
人間関係・生活環境	
<ul style="list-style-type: none"> ○教職員と児童生徒との親密な関係が築かれる。 ○児童生徒一人一人の特性を理解しやすく、寄り添った対応ができやすい。 ○保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。 ○ゆとりある教育環境の中で学ぶことができる。 ○学校生活の決まり等が徹底しやすく、落ち着いた環境を構築しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級内の男女比の偏りが生じやすい。 ○学年ごとの人数のばらつきがあり、極少人数の学年ができることがある。 ○班活動やグループ分けに制約が生じる。 ○人間関係が崩れると、その後の関係改善・修復において難しい状況が起こる可能性がある。 ○教職員が児童生徒に関わりすぎて、児童生徒の自主性が育ちにくい場合がある。
学校経営・運営	
<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が児童生徒の個性や課題について共通理解を図りながら学校運営ができる。 ○教職員の意識統一がしやすく、一丸となる体制が作りやすい。 ○地域の支援を得た教育活動の展開がしやすく、地域に根差した教育を推進できる。 ○個人懇談会などでは、一家庭に多くの時間をかけて話し合うことができるなど、家庭と学校の関係が築きやすい。 ○災害時の対応がしやすく、児童生徒の安心安全が確保しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○出張等で教職員が学校を離れる場合、授業等に代替えの教職員を配置できない場合がある。 ○学級担任が病気休暇や産前産後休暇等を取った場合、代替えの教職員が配置しにくい場合がある。 ○複式学級の場合、学級担任は2学年分の教材研究が必要などの負担が大きい。 ○教職員一人当たりの校務負担が大きくなる。 ○地区によっては、登下校に児童生徒が一人になるケースもあり、安全面の不安がある。

規模が大きくなった場合のメリット・デメリット

具体的な事例

規模が大きくなった場合のメリット	規模が大きくなった場合のデメリット
教育効果・学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考え方に触れ、学習課題を解決するための思考が広がる。 ○グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習・指導形態をとりやすい。 ○学習や体育、生活面など多方面にリーダーとなりうる人材を得られやすい。 ○運動会、体育祭、音楽会、学習発表会、文化祭等の学校行事に活気がある。 ○小学校の陸上大会、水泳大会では選手層が厚い。 ○部活動を選択できないケースや人数が少なくチームが組めないケースが減る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒一人一人に応じた指導や支援が行き届きにくくなる。 ○多様な教育活動に向けた細やかな配慮が難しい。 ○児童生徒一人一人が活躍する機会が減る。 ○一部のリーダー的児童生徒によって事が進むことがあり、他の児童生徒の責任感や主体性が育ちにくいが増える。 ○授業や学校生活において、受身の姿勢になりがちな児童生徒が多くなる。 ○学習ルールやマナー等の規律の徹底に時間や労力を要する。
人間関係・生活環境	
<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で人間関係調整能力、競争心、たくましさなどが育つことが期待できる。 ○児童生徒にとって友だちの選択肢が増える。 ○委員会活動や班活動、清掃活動等において、児童生徒の負担が軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の目の届かないところでのトラブルが増える可能性がある。(グループの対立、人間関係のトラブルなど) ○安全指導が徹底しにくいことがある。 ○教育環境において、物的・空間的ゆとりがなくなる。
学校経営・運営	
<ul style="list-style-type: none"> ○学級数が増えた場合、教職員定数が増え、教科にに応じて必要な教職員を配置することができる。 ○教職員の事務分掌を適切に配分できる。 ○学級担任が出張等で学校を離れる場合や病気休暇や産前産後休暇などを取った場合に、教職員の代替え対応の可能性が広がる。 ○教職員が、多様な児童生徒・保護者等と接する中で、経験値を上げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒数が増えることで児童生徒に関する諸問題が増え、その対応のために教職員の業務量や負担感が増加する。 ○個人懇談会などで一家庭に十分な時間が取れない。 ○校外学習に容易に行きにくくなり、地域と連携した教育活動が少なくなる。 ○非常時の児童生徒の安全確保に時間を要する。
管理運営	
<ul style="list-style-type: none"> ○管理運営費や維持補修費が削減できる。 ○校舎修繕、備品購入等を集中して行えることで、より充実した教育環境を整えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールバスに係る経費が増大する。 ○学校跡地利用計画策定が必要となる。

鬼北町 児童数・生徒数の推移一覧表（令和8年5月1日時点）

【小学校】

（単位：人）

好藤	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
R07	4	9	6	7	4	7	37
R08	9	6	7	5	7	11	45
R09	6	7	5	7	11	4	40
R10	7	5	7	11	4	6	40
R11	5	7	11	4	6	4	37
R12	7	11	4	6	4	2	34
R13	11	4	6	4	2	5	32
R14	4	6	4	2	5	0	21

愛治	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
R07	4	1	1	2	2	0	10
R08	1	1	2	2	0	0	6
R09	1	2	2	0	0	2	7
R10	2	2	0	0	2	1	7
R11	2	0	0	2	1	2	7
R12	0	0	2	1	2	0	5
R13	0	2	1	2	0	2	7
R14	2	1	2	0	2	0	7

三島	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
R07	6	8	7	3	3	2	29
R08	8	7	3	3	2	6	29
R09	7	3	3	2	6	3	24
R10	3	3	2	6	3	5	22
R11	3	2	6	3	5	5	24
R12	2	6	3	5	5	2	23
R13	6	3	5	5	2	3	24
R14	3	5	5	2	3	3	21

泉	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
R07	4	5	11	4	7	2	33
R08	5	11	4	8	2	6	36
R09	11	4	8	2	6	5	36
R10	4	8	2	6	5	4	29
R11	8	2	6	5	4	3	28
R12	2	6	5	4	3	7	27
R13	6	5	4	3	7	2	27
R14	5	4	3	7	2	6	27

近永	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
R07	34	33	29	32	26	28	182
R08	33	29	32	26	28	33	181
R09	29	32	26	28	33	25	173
R10	32	26	28	33	25	28	172
R11	26	28	33	25	28	28	168
R12	28	33	25	28	28	29	171
R13	33	25	28	28	29	23	166
R14	25	28	28	29	23	21	154

日吉	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
R07	3	6	5	5	2	1	22
R08	6	5	4	2	1	1	19
R09	5	4	2	1	1	1	14
R10	4	2	1	1	1	4	13
R11	2	1	1	1	4	2	11
R12	1	1	1	4	2	2	11
R13	1	1	4	2	2	1	11
R14	1	4	2	2	1	1	11

※小学校 複式学級の基準 1年・2年合計8人以下 その他の学年 16人以下

鬼北町 児童数・生徒数の推移一覧表（令和8年5月1日時点）

【中学校】

（単位：人）

広見	3年	2年	1年	合計	日吉	3年	2年	1年	合計	全体	小	中	合計	増減
R07	44	58	54	156	R07	3	3	5	11	R07	313	167	480	
R08	58	54	51	163	R08	3	5	2	10	R08	316	173	489	9
R09	54	51	56	161	R09	5	2	6	13	R09	294	174	468	-21
R10	51	56	54	161	R10	2	6	5	13	R10	283	174	457	-11
R11	56	54	48	158	R11	6	5	4	15	R11	275	173	448	-9
R12	54	48	44	146	R12	5	4	2	11	R12	271	157	428	-20
R13	48	44	39	131	R13	4	2	1	7	R13	267	138	405	-23
R14	44	39	56	139	R14	2	1	1	4	R14	241	143	384	-21
R15	39	56	39	134	R15	1	1	1	3	R15		137	137	
R16	56	39	44	139	R16	1	1	4	6	R16		145	145	
R17	39	44	42	125	R17	1	4	2	7	R17		132	132	
R18	44	42	40	126	R18	4	2	2	8	R18		134	134	
R19	42	40	35	117	R19	2	2	1	5	R19		122	122	
R20	40	35	30	105	R20	2	1	1	4	R20		109	109	

学校適正規模・適正配置に係る保護者アンケート回収率
 (令和7年2月17日～令和7年3月17日)

学校名	送付数	回収数	未回収数	回収率
好藤小学校	25	22	3	88.0%
愛治小学校	9	7	2	77.8%
三島小学校	20	18	2	90.0%
泉 小学校	29	29	0	100.0%
近永小学校	136	106	30	77.9%
日吉小学校	17	13	4	76.5%
広見中学校	85	70	15	82.4%
日吉中学校	6	5	1	83.3%
きほくの里保育園	56	43	13	76.8%
認定こども園さくら	21	21	0	100.0%
認定こども園ゆずっこ	9	6	3	66.7%
郵送（未就園児等）	23	7	16	30.4%
合計	436	347	89	79.6%

「学校適正規模・適正配置検討委員会に係る保護者アンケート」集計表

問1 あなたのお住まいの地区はどこですか。 (単位:世帯)

	回答数	構成比
(1) 好藤	35	10.1%
(2) 愛治	12	3.5%
(3) 三島	30	8.6%
(4) 泉	46	13.3%
(5) 近永	206	59.4%
(6) 日吉	18	5.2%
計	347	100.0%

問2 あなたのお子様は次のどれにあてはまりますか。
 すべてのお子様について記入願います。(複数回答可) (単位:世帯)

	回答数	構成比
(1) 就学前	144	31.0%
(2) 小学生	196	42.2%
(3) 中学生	125	26.9%
計	465	100.0%

問3 お住まいの地区の小学校についておたずねします。
 小学校の再編について、どのようにお考えですか。 (単位:世帯)

	回答数	構成比
(1) 現状のままでよい	107	30.8%
(2) 統合を検討した方がよい	168	48.4%
(3) どちらともいえない	71	20.5%
無回答	1	0.3%
計	347	100.0%

問4 お住まいの地区の中学校についておたずねします。
 中学校の再編について、どのようにお考えですか。 (単位:世帯)

	回答数	構成比
(1) 現状のままでよい	118	34.0%
(2) 統合を検討した方がよい	154	44.4%
(3) どちらともいえない	71	20.5%
無回答	4	1.2%
計	347	100.0%

お住まいの地区の小学校についておたずねします。
 小学校の再編について、どのようにお考えですか。

(単位：世帯)

選択項目	総計	好藤	愛治	三島	泉	近永	日吉
現状のままでよい	107	13	2	6	9	67	10
統合を検討した方がよい	168	17	9	18	28	92	4
どちらともいえない	71	5	1	6	9	46	4
無回答	1	0	0	0	0	1	0
合計	347	35	12	30	46	206	18

お住まいの地区の中学校についておたずねします。
 中学校の再編について、どのようにお考えですか。

(単位：世帯)

選択項目	総計	好藤	愛治	三島	泉	近永	日吉
現状のままでよい	118	18	5	7	12	71	5
統合を検討した方がよい	154	14	5	14	26	87	8
どちらともいえない	71	3	2	8	8	45	5
無回答	4	0	0	1	0	3	0
合計	347	35	12	30	46	206	18

お住まいの地区の小学校についておたずねします。
 小学校の再編について、どのようにお考えですか。

(単位:世帯)

区分	選択項目	好藤	愛治	三島	泉	近永	日吉
就学前 (保育園等)	現状のままでよい	9	0	4	3	35	1
	統合を検討した方がよい	10	6	6	11	38	1
	どちらともいえない	0	0	2	5	11	2
	無回答	0	0	0	0	0	0
	合計	19	6	12	19	84	4
小学生	現状のままでよい	8	2	3	9	36	5
	統合を検討した方がよい	10	5	12	15	44	4
	どちらともいえない	4	0	4	5	26	4
	無回答	0	0	0	0	0	0
	合計	22	7	19	29	106	13
中学生	現状のままでよい	1	0	0	2	13	8
	統合を検討した方がよい	3	4	8	10	42	1
	どちらともいえない	4	1	2	4	20	1
	無回答	0	0	0	0	1	0
	合計	8	5	10	16	76	10

お住まいの地区の中学校についておたずねします。
 中学校の再編について、どのようにお考えですか。

(単位:世帯)

区分	選択項目	好藤	愛治	三島	泉	近永	日吉
就学前 (保育園等)	現状のままでよい	9	3	4	4	36	0
	統合を検討した方がよい	8	2	5	11	32	1
	どちらともいえない	2	1	2	4	15	3
	無回答	0	0	1	0	1	0
	合計	19	6	12	19	84	4
小学生	現状のままでよい	14	3	4	7	33	2
	統合を検討した方がよい	8	2	10	18	44	7
	どちらともいえない	0	2	4	4	26	4
	無回答	0	0	1	0	3	0
	合計	22	7	19	29	106	13
中学生	現状のままでよい	4	1	2	4	19	4
	統合を検討した方がよい	3	3	5	9	39	3
	どちらともいえない	1	1	2	3	18	3
	無回答	0	0	1	0	0	0
	合計	8	5	10	16	76	10

令和7年度 第1回 鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会議事概要

日 時：令和7年8月20日（水曜日） 18時30分から19時26分まで

場 所：近永公民館 2階 講堂

出席者：委員20人（5人欠席）、教育長、教育課長、教育課長補佐兼学校教育係長

- 1 開会
- 2 あいさつ 鬼北町教育委員会教育長 行定 洋嗣
- 3 委嘱状交付
- 4 委員紹介
- 5 委員長及び副委員長の選出
委員長：大柴博之委員 副委員長：山田真理委員 選出
- 6 諮問
- 7 議事

会議等の公開是非

会議は非公開とし、会議資料は鬼北町ホームページで公開することを決定した。

また、発言者の氏名を非公開とし、要点をまとめた議事概要を鬼北町ホームページで公開することも決定した。

なお、委員会の開催の都度、議員全員協議会において事務局が概要を報告することについて承諾を得た。

(1) 鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会について

【鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会について】を説明

(2) 小規模な学校のメリット・デメリット、規模が大きくなった場合のメリット・デメリットについて

【小規模な学校のメリット・デメリット、規模が大きくなった場合のメリット・デメリットについて】を説明

(3) 今後の児童数・生徒数の推移について

【鬼北町 児童数・生徒数の推移一覧表（令和7年8月1日時点）】を説明

(4) 保護者アンケート結果について

【学校適正規模・適正配置に係る保護者アンケート回収率】、【「学校適正規模・適正配置検討委員会に係る保護者アンケート」集計表】を説明

【質疑応答】

■委員

アンケート回収率の回収数とアンケート集計表の回答数が違うのはなぜか。校区外も含まれているからなのか。

□事務局

アンケート集計表には就学前、小学生、中学生の数が含まれており、アンケート回収率の合計の数字とは同じである。校区外については通っている学校の地区をお住いの地区として回答してもらっている。

■委員

アンケート集計表の集計の考え方はアンケートを送付した家庭に小学生が2人、中学生が1人いたとしたら一家庭が3回分同じ質問に答えているということか。また、11ページの表は就学前の子どもがいる家庭がどのように考えているのかということを出したのか。

□事務局

例えば小学生に2人、中学生に1人の子どもがいる家庭については小学生で1回、中学生で1回の集計としている。11ページの表についてはそのとおりであり、就学前、小学生、中学生の子どもがいる家庭がそれぞれどのように考えているか分析として提示したく作成した。

■委員

国の方針で学校の統合関係について方向性が出ているのか。また、期限はあるのか。

□事務局

平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」が文部科学省から出されている。期限はない。

■委員

鬼北町では過去に2回検討委員会がされているが、2回とも再検討、先送りにするという結論が出ている。前回の答申の中に「無駄を避けるため、具体的な統廃合の計画が策定されるまでの間は学校の大規模な改修は凍結し、必要最小限の修繕に止めることが望ましい。」と入っており、そのまま先送りにするようなことがあると改修するようなことが必要となった時にできない、足枷になってしまうのではないか。アンケートの結果を見ると統合を検討すると言った項目も多く出ているが、ここで再度先送りするという曖昧な結論にするのではなく、今回の委員会の開催中に一定の方向性を出すことが望ましいと思うが、町としてもその考えなのか。

□事務局

今日の説明を受けて、今後、地域や学校、PTA等で話の場をもっていただき、その場で出た意見を持ち寄っていただき、それらを検討委員会で委員長を中心にまとめて教育委員会に答申する。その答申を受けて、教育委員会としての方針を立てていく流れになるので、事務局としてはこの場で申し上げる段階ではない。

■委員

諮問に対する答申の期限的なものはあるか。

□事務局

答申については特に明確な期限を設けていない。持ち帰っていただき、各団体で協議いただいた結果により答申の進み具合も変わってくると思うが、重要な話になるのである程度念入りに協議をしたいと考えている。

■委員

地域や学校、PTAは今後、協議の場を持つことができるが、未就学時の家庭はどのように検討し意見を吸い上げていくのか。保護者会長は委員に入っているが、所長が委員に入っていないため、どのような考えなのか。

□事務局

委員に町内3つの保育園、認定こども園の保護者会長に入ってもらっている。保護者会長に意見をまとめていただきたいと考えている。

【意見】

■委員

十数年前、生徒指導上問題がある子どもを鬼北町内のA校が受け入れた。地域や学校の関わりにより健全な生活を送ることができ、卒業時には「もっと早くA校に来たかった」と涙を流したそうである。そういった事例もあることから、子どもたちにとって最善の教育や活動ができるよう協議を行っていただきたい。

■委員

農協も今、県1JA構想ということで愛媛県下の農協が一緒になる。愛治支所の農協もすでになくなった。こういう風に事業再編で人も減るが経営形態も変わってくる現状にある。昭和42年に近永西小学校が近永小学校に統合した。その時には今回のようにアンケートをしたかどうか知り得ないが、国の方針でやったのだと思うが、結果的に507名の児童数となった。そういうことを過去にやってきた一つの実績があるので、今回統合の話も結構でているので、前向きに検討しているのだろうと考えているが、今後その辺の話を十二分にお聞かせ願いたい。

■委員

地域に持ち帰って具体的に話すことをしたとしても、意見が分かれるので話をまとめるのは中々難しいと思う。それぞれの地域だけを考えてもいけないし、町全体で考えないといけないので意見がまとまりにくいと思うが、じっくり協議し次回の場で発言したい。個人的な意見では先延ばしをすると非常に苦しいと思う。

■委員

今、スポーツを通じて、鬼北町内にソフトボールのジュニアチームが出来ているが、それこそ今の統合の姿だと思う。統合すればみんなが集まり良い学校になると思う。それが現実に出来ている。これも教育の一環と思うので、子どもたちも一生懸命練習し、全国レベルの大会にも出ている話を聞いている。みんなが集まりその中で連帯感をもってやっていけるのが雛形になると思う。

8 その他

・今後のスケジュールについて

次回の委員会を11月に開催予定。

9 閉会

鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会（第2回） 概要

日時：令和7年11月19日（水） 18時29分から19時45分まで

場所：中央公民館 3階 大会議室

出席委員：24名、欠席委員：1名

主な意見

- ・それぞれメリット・デメリットはあるが、統合を検討する時期にきていると思う。
- ・以前あったアンケートの結果でよいのではないか。
- ・偉い人たちの意見だけではなくて、保護者の意見をもっと大切にしてもらいたい。
- ・仮に統合が進むのであれば、通学等のデメリットはあるが、一箇所に集中の学校を望む。10年先はわからないが、中途半端に数か所の学校を改修・改築してお金を使うよりも、その分、子どもたちや保護者のサポートができることに使っていただきたい。
- ・学校がなくなると学校がある地域へ親が転居をする可能性が非常に高いということで、ますます学校がなくなった地域においては過疎化が進行して地域が寂れてしまうのではないかとこのようなことで不安がある。
- ・教育委員会が具体案や方向性を示してほしい。
- ・個別性のある対応が望ましい。
- ・最終的な結果だけの報告はやめていただきたい。
- ・自分の子どもが実際に当事者となってみないと考えにくいところもあると思う。
- ・十分に意見を戦わせずに住民に周知しないまま統合に舵を切ると今後に禍根を残すことになるのではないか。
- ・小学校に関しては令和7年度から13年度の生徒数の推移があまり変わらないので、すぐに統合しなくてもいいと思う。
- ・小規模校の良さが失われることが残念である。
- ・制服が変わるのではないか。
- ・地域の方々と交流がなくなるのは寂しくなる。
- ・中学校に関しては生徒数が少ないので統合を検討した方がいいのではないか。
- ・通学の安全性と負担軽減
- ・通学面もしっかり示してもらいたい。
- ・統合した場合、登下校に不安がある。
- ・統合の反対意見は特にありません。

- ・統合後の教育の質の保障
- ・判断の根拠となる情報の開示
- ・部活動の選択の幅が増えて生徒により効果が期待できる。
- ・本当に子どもたちにとってどういったところがいいのか分からない。
- ・目が行き届かなくなるのではないか。
- ・いろんなことをするにしても、比べる対象が少ないので、競争意識がない。
今後社会に出た上で競争になってきた時に、そういうことではいけないのではないか。
- ・この問題は5年先ぐらいの目先のことを考えるのではなく、20年先、30年先を見据えて検討しなければならないと思う。また、地域の方もいろいろな協力をしていただいて、地域一丸で各種イベントを盛り上げてきていただいている。
- ・鬼北町全体のことを考慮すべきであり、統合は避けられないと考える。
- ・現在のメリットとして、児童が少ないので、勉強を丁寧に教えていただく
地区としては、差し迫った問題としての捉え方がなかったということで、ほとんどが現状のままでよいか、少子化が進んできた場合においては、統合を検討した方がよいのではないかという意見であった。
- ・統合するにあたり、通学距離がかなり長くなる可能性がある。朝にかなり早く起きなければならないのではないか。
- ・保育所が統合したことで、保育所は近永に行って、そこでは友達がたくさんできたけど、小学校では友達がなくなる。

学校長ヒアリングまとめ

学校としては、どのような状況になっても与えられた役割を果たし、学校の実態に応じて子どもたちのために最善を尽くすことが重要であると考えている。今後もそれぞれの教職員が自分の立場でできることを着実に実践し、学校としての力を発揮していきたいと思っている。

また、もし学校が再編された場合は、児童生徒の通学距離や通学時間が長くなること、また、子ども教室や児童クラブの在り方、さらにスポーツ少年団等の習い事に関する送迎についても検討をお願いしたい。

鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会（第3回）概要

日時：令和8年2月16日（月） 18時30分から19時21分まで

場所：中央公民館 3階 大会議室

出席委員：21名、欠席委員4名

(1) 協議内容

- ・中学校についての協議を行った。

(2) 賛成意見

- ・生徒数減少を踏まえ、統合に向けて早めに方向性を出すべき。

(3) 懸念点

- ・通学負担（時間、距離、雪、部活動等）への不安。
- ・大規模化による不登校増等への懸念。
- ・住民・保護者への周知不足による不安。

(4) 決定事項

- ・中学校再編については、統合を進める方向で検討すべきとの意見で概ね一致した。

(5) 課題

- ・通学方法、時刻等の具体的な内容の整理

(6) 今後

- ・次回は小学校について協議を行う。委員の任期や開催時期の関係から、来年度（4月以降）に引き継いで協議を継続する。
- ・答申は小学校及び中学校について一括して提出し、その後に再編計画作成の上で、総合教育会議・議員全員協議会、全地区での説明を行う。

今後の予定について

年月	内容等	内容
令和8年 5月	第1回委員会	進捗状況、今後の予定
令和8年 8月	第2回委員会	各団体からの意見等の報告
令和8年10月	第3回委員会	小学校についての協議
令和8年12月	第4回委員会	〃
令和9年 1月	第5回委員会	〃
令和9年 2月	第6回委員会	答申案についての協議
令和9年 3月上旬	第7回委員会	答申案の最終確認
令和9年 3月下旬		教育委員会への答申